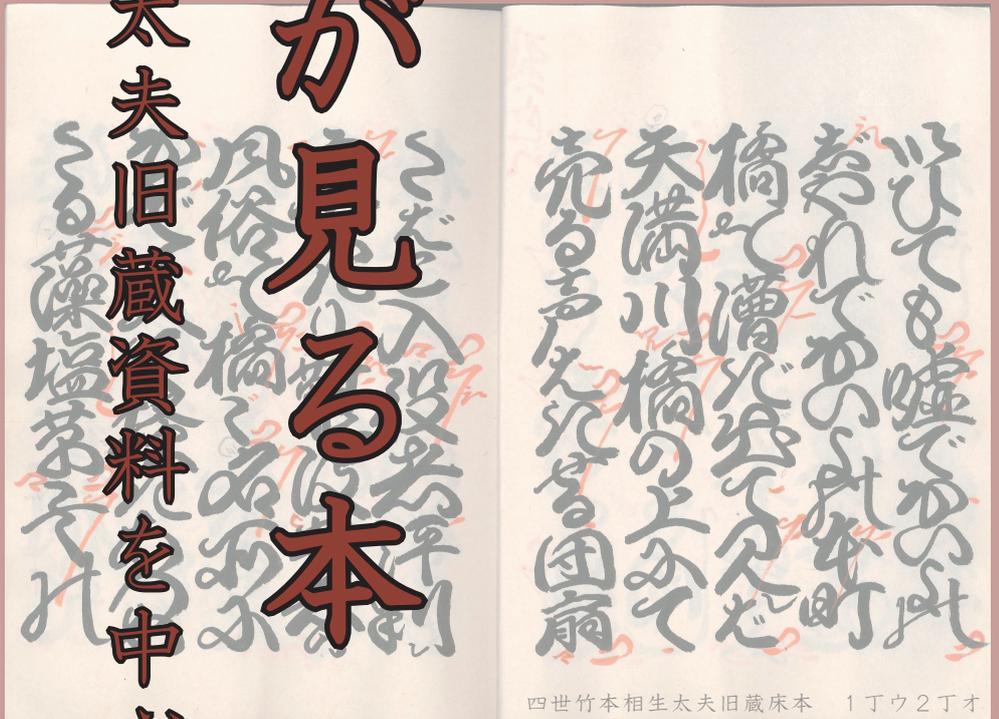


四世竹本相生太夫旧蔵床本 表紙

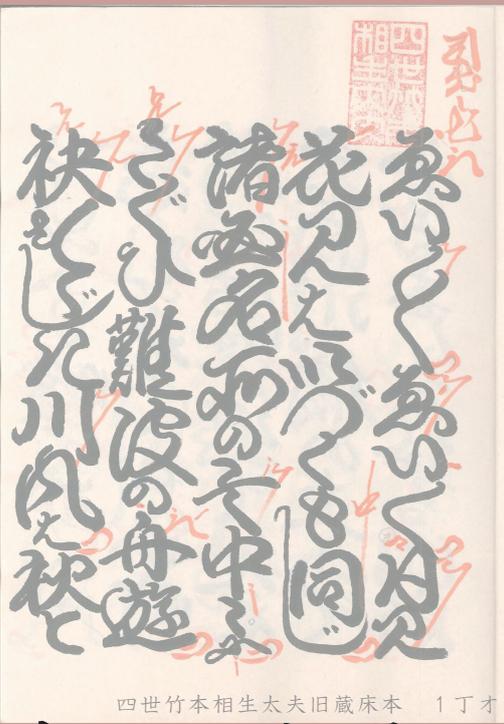


四世竹本相生太夫旧蔵床本 1丁ウ2丁オ

床本 太夫が見る本

— 四世竹本相生太夫旧蔵資料を中心に —

文楽の太夫が舞台上で浄瑠璃を語るときに使う本を床本といいますが、床本は、大きな字で一頁に五行で本文が書かれており、本文の横には太夫が語るのに必要な「譜」が書き込まれています。床本が必ず太夫の前に置かれるようになったのがいつ頃からは、はっきりとしていませんが、神戸女子大学古典芸能研究センター所蔵の志水文庫にある浄瑠璃『つれづれ草』（延宝九年上演）の写本は、その形式から、現存する最古の床本と考えられています。センターは二〇一八年十二月に四世竹本相生太夫旧蔵資料を受贈しました。その資料の大半は、近現代の文楽の太夫達が実際に使っていた床本です。二〇一九年度最後の展示では、最古の床本・江戸時代の床本・近現代の床本と、「太夫が見る本」である「床本」に焦点を当てつつ、浄瑠璃関連の様々な本を展示します。



四世竹本相生太夫旧蔵床本 1丁オ

場所 神戸女子大学古典芸能研究センター展示室
 期間 二〇二〇年二月十七日（月）
 ～ 三月三十一日（火）
 土・日・祝日休室
 時間 十時～十七時

四世竹本相生太夫旧蔵床本 奥書